

和歌山県高野町における総本山金剛峯寺文化観光拠点計画

宗教法人金剛峯寺

目 次

1.	実施体制	3
2.	事務の実施体制	5
3.	基本的な方針	6
	3-1. 現状分析	6
	3-1-1. 主要な文化資源	6
	3-1-2. 来訪客の動向	9
	3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較	12
	3-2. 課題	13
	3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性	14
	3-4. 地域における文化観光の推進への貢献	19
	3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出	19
4.	目標	20
5.	目標の達成状況の評価	25
6.	文化資源保存活用施設	26
	6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況	26
	6-1-1. 現状の取組	26
	6-1-2. 本計画における取組	27
	6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携	28
	6-2-1. 現状の取組	28
	6-2-2. 本計画における取組	29
	6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携	30
	6-3-1. 現状の取組	30
	6-3-2. 本計画における取組	31
7.	文化観光拠点施設機能強化事業	33
	7-1. 事業の内容	33
	7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業	33
	7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業	35
	7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業	38
	7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業	40
	7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業	41
	7-1-6. 7-1-1～7-1-5の事業に必要な施設又は施設の整備に関する事業	42
	7-2. 必要とする特例措置の内容	44
	7-3. 必要な資金の額及び調達方法	45
8.	計画期間	50

和歌山県高野町における総本山金剛峯寺文化観光拠点計画

1. 実施体制

文化資源保存 活用施設	名称	総本山金剛峯寺	所在地	和歌山県伊都郡高野町高野山132
申請者 文化資源保存活用 施設の設置者	名称	宗教法人金剛峯寺	所在地	和歌山県伊都郡高野町高野山132
	代表者	執行長 添田 隆昭		
	地方公共 団体内部 の役割			
共同申請者① 文化観光推進 事業者	名称	一般社団法人 高野町観光協会	所在地	和歌山県伊都郡高野町高野山359-3
	代表者	代表理事 西本 憲茂		
	役割	施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者		
共同申請者② 文化観光推進 事業者	名称	株式会社DMC高野山	所在地	和歌山県伊都郡高野町高野山799
	代表者	代表取締役 大田原 博亮		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者③ 文化観光推進 事業者	名称	学校法人高野山学園	所在地	和歌山県伊都郡高野町高野山385
	代表者	理事長 添田 隆昭		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		
共同申請者④ 文化観光推進 事業者	名称	凸版印刷株式会社	所在地	東京都文京区水道1-3-3
	代表者	文化事業推進本部長 矢野 達也		
	役割	施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者		

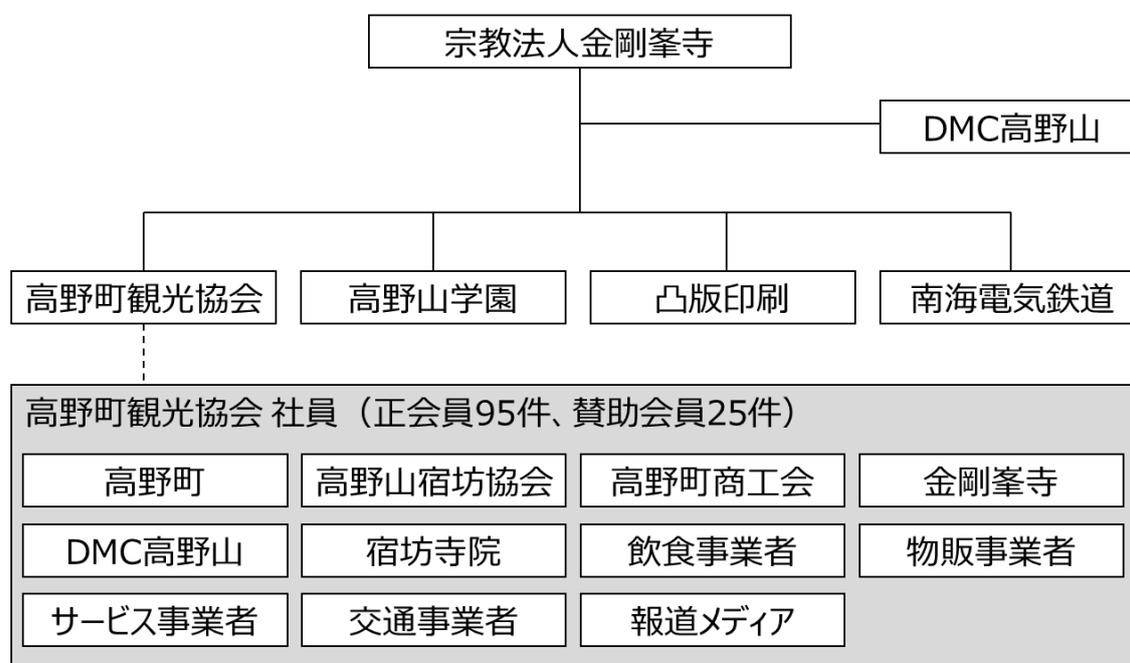
共同申請者⑤ 文化観光推進 事業者	名称	南海電気鉄道株式会社	所在地	大阪府大阪市浪速区敷津東 2-1-41
	代表者	沿線価値創造部長 木原 久友		
	役割	施行規則第 1 条第 2 項第 2 号の文化観光推進事業者		

2. 事務の実施体制

和歌山県高野町における宗教法人金剛峯寺を核とし、学校法人高野山学園、凸版印刷株式会社、南海電気鉄道株域会社、さらに高野町、山内の各寺院等関係者、地域商工業者、交通等関連事業者が加入する一般社団法人高野町観光協会の社員が一体となって、総本山金剛峯寺の文化観光拠点機能強化を実行・推進する体制を構築する。その進捗は4半期に1度開催される観光協会理事会にて関係者に共有することで計画の円滑かつ確実な実施を担保し、目標値達成に向けた連携を図る。

高野町内の豊富な文化資源の文化的魅力、世界遺産としての文化的価値を深く理解できるストーリーを「高野山文化観光ストーリー」として造成し伝えていくことを主要施策として推進していき、さらに来訪者に本物の文化資源の魅力をより深く理解し周遊意欲を高めるための補助施策として、今回新たに付帯施設となる「高野山デジタルミュージアム(仮称)」を設置する。具体的には、現地にてデジタル施策である解説コンテンツで事前学習を促し、文化資源の歴史背景や魅力を十分理解してもらうことで、文化観光を実現させるためのハブ拠点として位置付ける。

なお「高野山文化観光ストーリー」の造成事業のリード及び「高野山デジタルミュージアム(仮称)」の運営は、高野町観光協会の会員である地域まちづくり会社の株式会社DMC高野山が行う。



3. 基本的な方針

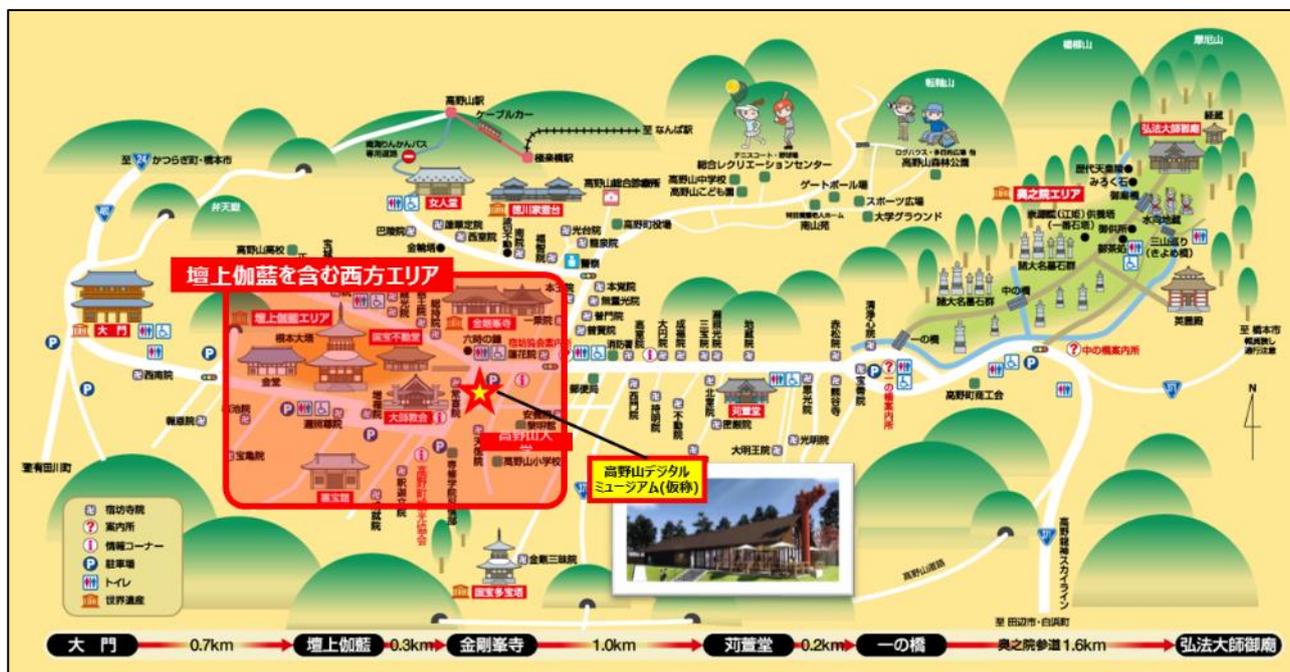
3-1. 現状分析

3-1-1. 主要な文化資源

◆総本山金剛峯寺の基本概要

和歌山県高野町における総本山金剛峯寺は、和歌山県と奈良県が県域を接する紀伊半島の中央部に位置し、標高約 900m の山々に囲まれた東西約 4 km、南北約 2 km の山上盆地に開かれている。この盆地状の平地の地域は、古来より歴史的・文化的意味合いも込めて「高野山」と呼ばれている。

通常、お寺と言えば一つの建造物を指し、その敷地内を境内というが、総本山金剛峯寺は「一山境内地」と称し、高野山の至る所が金剛峯寺の境内地であり、高野山全体が一つのお寺であることが、稀有な文化資源としての一大特徴である。この総本山金剛峯寺には国宝 23、重要文化財 185、県指定文化財 42 (2019 年) と多くの文化資源が残されており「山の正倉院」とも称されている。



◆総本山金剛峯寺の主要文化資源

総本山金剛峯寺の二大聖域として、「壇上伽藍を含む西方エリア」と「奥之院エリア」がある。

【壇上伽藍を含む西方エリア】

・壇上伽藍

空海創案による密教伽藍の構成により、創建時より 1200 年間、幾度の災禍を経て現在でも継承されている。密教伽藍は世界に類を見ない貴重な聖域である。現在、伽藍には 133 の建造物、石塔、燈籠が建立され、内 20 余りの建造物は伽藍の歴史を物語る貴重なものである。

<主な諸堂塔>

根本大塔、西塔、金堂、中門、御影堂、准胝堂、孔雀堂、御社、山王院、愛染堂、大会堂、東塔、六角経蔵、国宝不動堂など



根本大塔



西塔



六角経蔵

・金剛峯寺

高野山の総本山で、主殿をはじめとした多くの広間と諸堂、国内最大とされる石庭と庭園で構成され、48,295 坪の広大な敷地を有す。幾度の災禍などの経緯により江戸期の建造物ではあるが、内外観ともにその優雅さは、高野山の歴史と思想的文化を探る上で貴重なものである。

<主な広間他> ※以下、県指定文化財

大広間（主殿）、奥書院、経蔵、鐘楼、真然堂、阿字観道場、山門、会下門、かご塀 など多数



表門



主殿



蟠龍庭

・高野山霊宝館

高野山の文化資源の保護・保存・継承を目的に、大正 10 年に開館した高野山の博物館相当施設であり、現在は公益財団法人高野山文化財保存会が運営。国宝 21 件、重要文化財 148 件、和歌山県指定文化財 17 件を含む約 28,000 点を収蔵するほか、未指定品 5 万点以上を収蔵している。また本館は 1998 年に登録有形文化財に指定された。



霊宝館外観

【奥之院エリア】

空海入定の御廟のもとに信仰者達が建立した供養塔が集合し、その数は 20 万基とも 40 万基といわれ、世界的にも珍しい信仰環境を形成している。



奥之院御廟



織田信長供養塔



薩摩島津家供養塔

【その他】

徳川家霊台や金剛三昧院、また高野山への参詣道として、高野参詣道 町石道、高野参詣道 女人道、高野参詣道 京大阪道不動坂などが残されている。



徳川家霊台



金剛三昧院多宝塔



町石

◆参考：高野町内の各種認定

・世界遺産認定

平成 16 年、高野山町石道、金剛峯寺境内の本坊、大門、伽藍、奥之院、徳川家霊台、金剛三昧院の 6 地区、建造物 12 件が 吉野、熊野、大峰とともに、紀伊山地の霊場と参詣道としてユネスコにより世界遺産に登録。

平成 28 年には高野参詣道として、女人道、黒河道、不動坂、三谷坂が追加登録。

・日本遺産認定

「女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」が 2020 年に日本遺産に認定された。うち高野町では、槇尾道、町石道、不動坂口女人堂、お竹地藏尊、女人道が構成文化財として認定。

まとめ

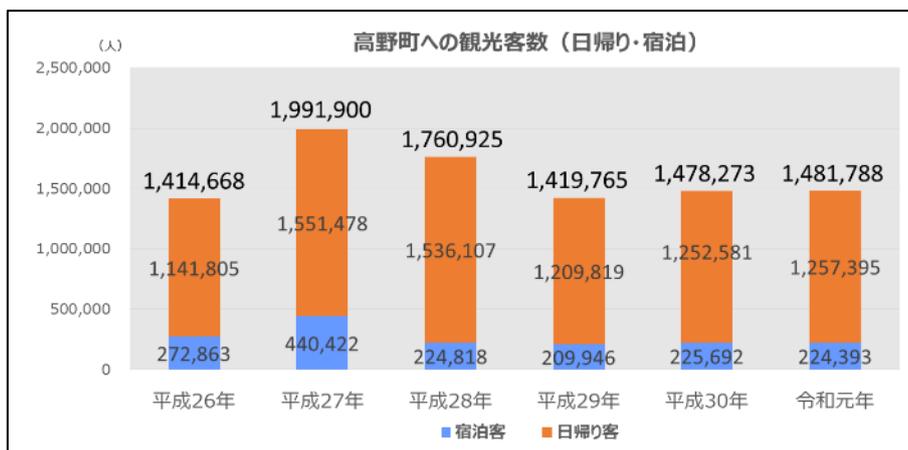
- 和歌山県高野町における「高野山」は一帯が文化資源の宝庫である稀有な場所
- 豊富な文化資源は地域内各所に分散している
- 総合的かつ俯瞰的に知ることによって初めて高野山の持つ文化的魅力を理解できる
- なかでも「壇上伽藍を含む西方エリア」と「奥之院エリア」は文化資源の二大聖域であり、高野山の文化財のうち 8 割以上が「伽藍を含む西方エリア」に集中している。

3-1-2. 来訪客の動向

◆高野町の観光客数

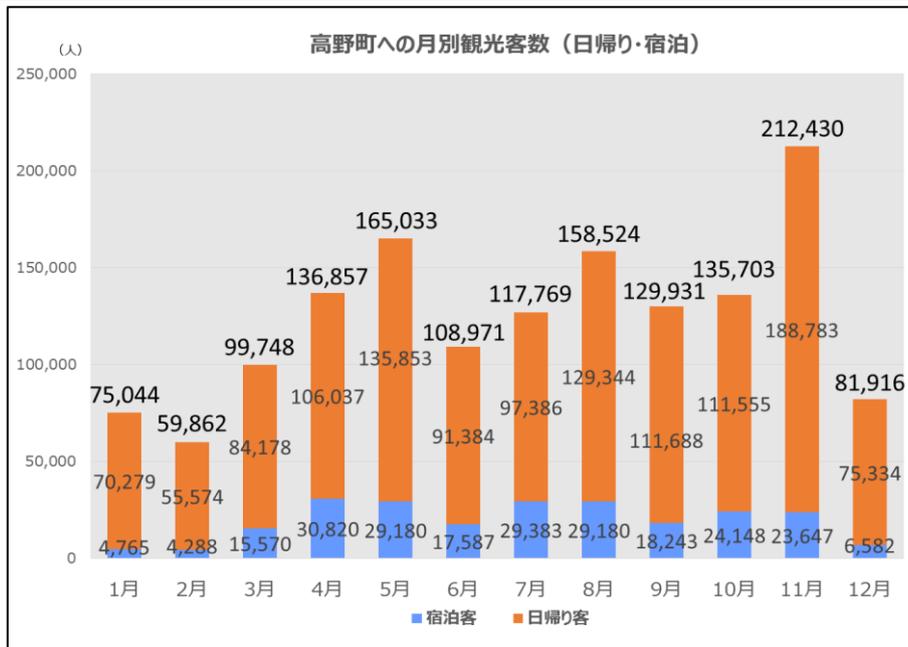
・コロナ前の観光客総数は 1,481,788 人（令和元年）。高野山開創 1200 年記念大法会のあった平成 27 年の 1,991,900 人をピークに減少したが、平成 30 年からは再び微増傾向にあった。

・コロナ前の宿泊客数は 224,393 人（令和元年）。観光客全数から見れば、宿泊客数を伸ばすポテンシャルは十分あると言える。



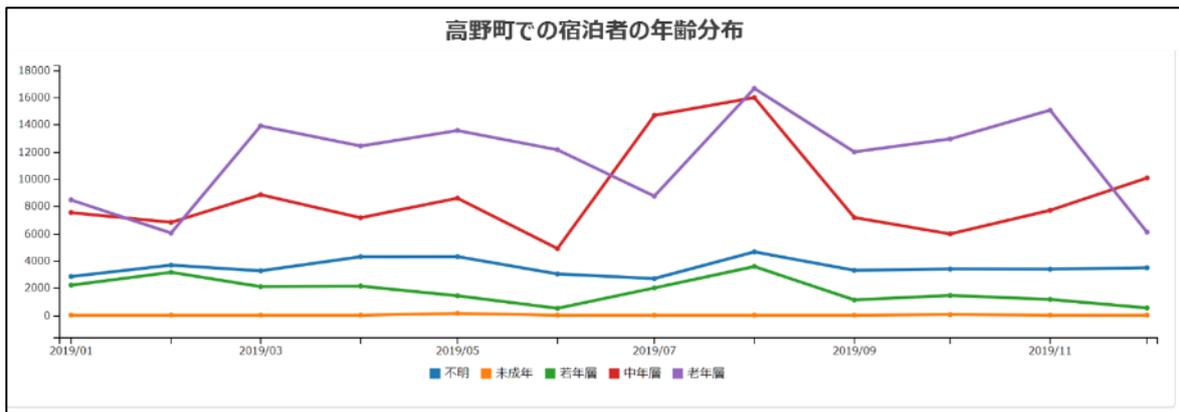
出典：和歌山県「観光客動態調査報告書（令和元年）」

・月別の観光客数を見ると、春から秋にかけて特に紅葉の時期に多くなる傾向があるが、12～2 月の冬季には積雪も影響して宿泊客だけでなく来訪客自体が大きく減少する。



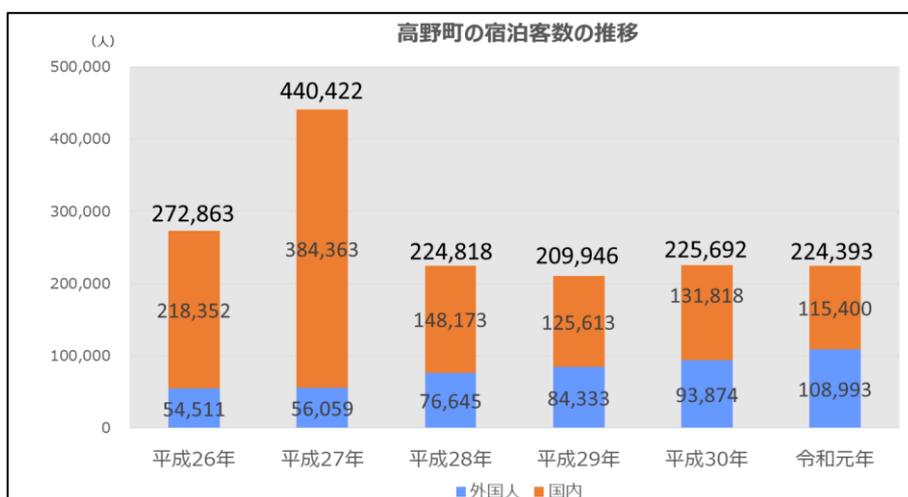
出典：和歌山県「観光客動態調査報告書（令和元年）」

- ・宿泊を伴う来訪者の年代層は、40代以上の中年層・シニア層が多く、20代・30代の若年層が少ない傾向にある。



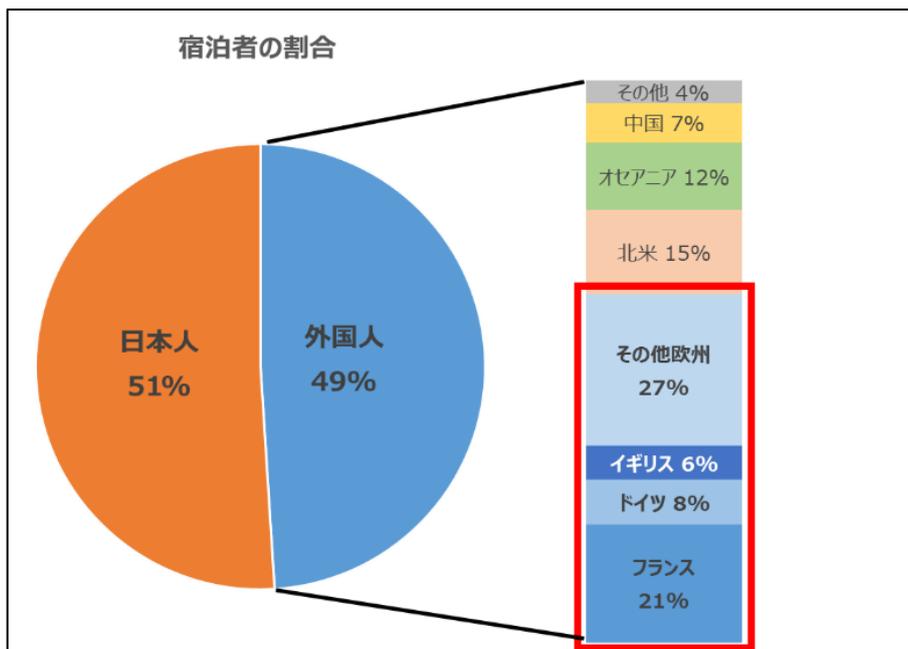
出典：観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

- ・コロナ前のインバウンド宿泊客数は、平成26年には5.4万人だったが令和元年には10万人を超え、毎年上昇傾向にあった。



出典：和歌山県「観光客動態調査報告書（平成26年～令和元年）」

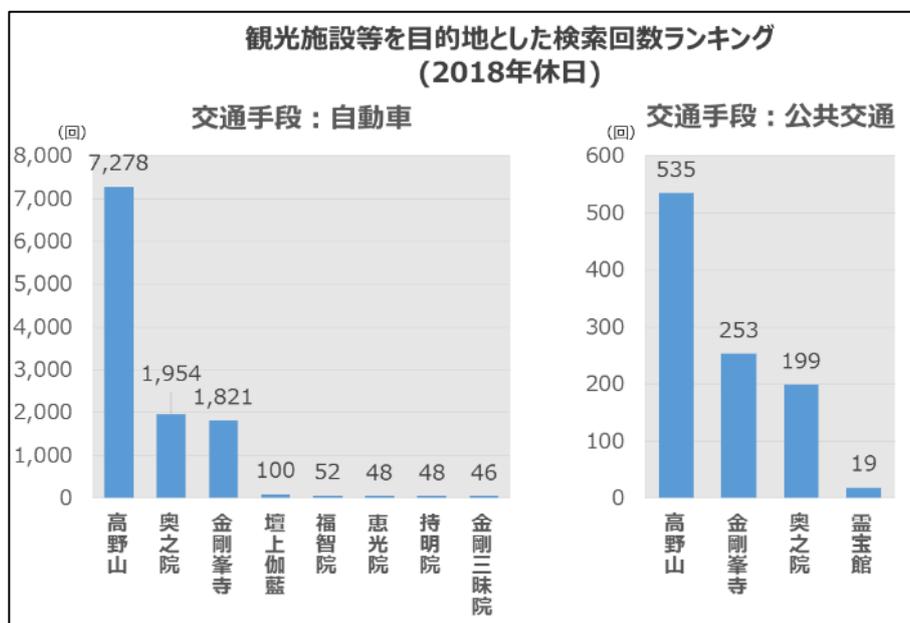
- ・令和元年の宿泊者の来訪地域内訳は、国内と海外で約半数ずつとなり、外国人の割合はフランスを筆頭に欧州が6割以上を占める。



出典：和歌山県「観光客動態調査報告書（令和元年）」

◆来訪者からの認知度

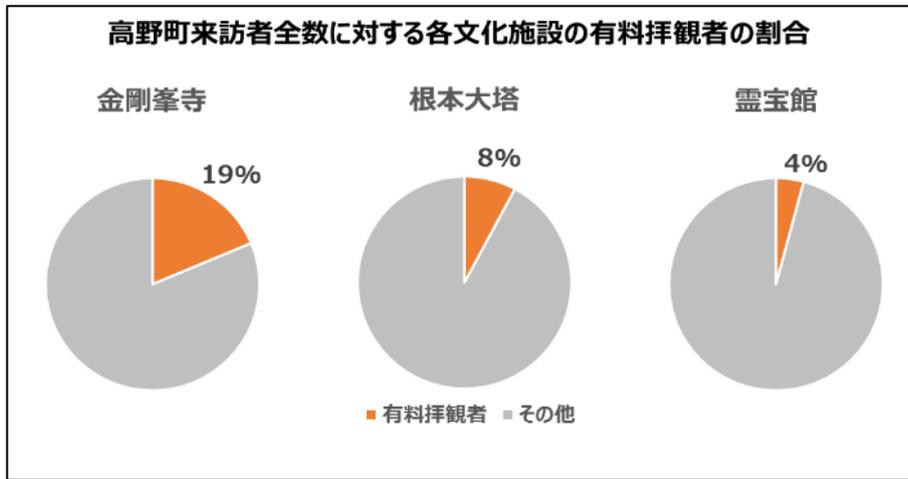
- ・観光地を目的とした検索回数データによると、金剛峯寺と奥之院は目的地として認知されているが、壇上伽藍や霊宝館などその他文化施設においてはあまり認知されていない。



出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」 ※検索回数は重複を除いた月間のユニークユーザ数

◆主要文化施設の観光客数

- ・高野町全体の観光客数が年間約150万人であるのに対し、壇上伽藍を含む西方エリアの主要文化施設である金剛峯寺は27.9万人（19%）、根本大塔は11.6万人（8%）、高野山霊宝館は6.2万人（4%）しか有料拝観されていない（※令和元年の有料拝観者数集計データより）。
- ・壇上伽藍を含む西方エリアは、奥之院とならぶ高野山の二大聖域の1つであるにも関わらず、文化施設の有料拝観客数は極端に少ない。



出典：金剛峯寺拝観者数集計（令和元年）

まとめ

- 国内の観光客数は伸び悩み、ほとんど日帰りで、宿泊客が少ない
- 年代別では中年層やシニア層が多く、若年層が少ない
- コロナ前のインバウンド客は増加傾向で、宿泊客全体の半数を占めていた
- 壇上伽藍を含む西方エリアへの有料拝観者は高野町全体の来訪者数と比較して極端に少ない

3-1-3. 他の文化資源保存活用施設との比較

◆強み

【文化資源が豊富】

高野山は1200年の長きに渡って独自の文化や生態系（エコシステム）を生み出し、その地形の利も相まって、現在まで守り伝えられてきた唯一無二の国際文化都市である。またその文化的・歴史的背景から、保有する文化資源の数も極めて多く、深い文化資源の魅力と価値によって、歴史的にも長く、日本人そして外国人をも惹きつけてきた場所である。和歌山県には国指定文化財が459件あるが、そのうち207件が高野町にあり、全体の45%を占める。次に多いのは和歌山市であるがその件数は52件にとどまり、高野町の文化資源数は県内でも圧倒的である。

【山内50の宿坊寺院による宿泊体験】

山内の117の寺院のうち50が宿坊寺院となっており、高野町は国内でも他に類を見ない一大宿坊エリアである。精進料理や本堂での早朝勤行が体験できるほか、写経などの仏教体験、奥之院へのナイトウォークなどのサービスを展開している。また、客室・風呂・庭園等にそれぞれの寺院の特徴があり、宿泊施設としての魅力も十分兼ね備えている。国内は勿論、外国人宿泊者も多く、国内外に通じる高野町の主だった魅力の一つであると言える。

【金剛峯寺オフィシャルVRコンテンツの二次利活用が可能】

金剛峯寺監修のもと、凸版印刷が、SDGs活動の一環として壇上伽藍等の文化資源をデジタルアーカイブしVRコンテンツ（「金剛峯寺オフィシャルVRコンテンツ」）を開発・製作した。なお当コンテンツの著作権は、係る費用を全額負担し開発・製作した凸版印刷に帰属し、さまざまな文化観光施策に二次利活用することが可能である。

【高いインバウンド人気】

高野町の年間宿泊者数約 20 万人のうち、半数となる約 10 万人がインバウンドであり、そのうちの約 6 割がフランスを筆頭に欧州からの来訪者が占める。

【企業とのつながり】

奥之院には企業の供養塔や慰霊碑が多数並んでおりその数は約 100 社に及ぶ。宗教の枠を超えた聖地として、企業とのつながりも強い。

◆弱み

【魅力が十分に伝わっていない】

高野町の豊富な文化資源は地域内各所に分散しており、またそれらの物語性や関連性は、歴史や教えに関する深い知識がないと理解が困難である。また、「奥之院」と「金剛峯寺」以外、豊富な文化資源が存在する壇上伽藍を含む西方エリアの認知が不足している。国内来訪者のほとんどが日帰りとなっていてしまっている要因としても、豊富な文化資源の存在やその魅力が十分に伝わっていないことが推測される。

【冬季の来訪客減】

寒さの厳しい冬季（12 月～2 月）は積雪と路面凍結により主要交通手段である自動車での来訪が困難となるため来訪者が非常に少ない。GW 期間やお盆前後、紅葉シーズン等の繁忙期との差が激しく、一年を通じた来訪客数の平準化が出来ていない。

◆他の文化資源保存活用施設との比較

【文化資源の理解・周遊を促進するハブ】

日本の主要な文化資源を保有する地域において、文化情報の提供による理解促進や、周遊時に休息できる場（カフェ等）を複合的に提供する例として、東大寺（奈良県）の「東大寺ミュージアム」や、日光東照宮（栃木県）の「日光東照宮宝物館」、熊本城（熊本県）の「熊本城ミュージアム」等がある。

まとめ

- 豊富な文化資源を 1200 年守り続けてきた稀有な場所として人を惹きつける
- インバウンド人気や企業の支持をも得ている
- 文化資源の意味を理解することは難しく、価値が伝わっていない
- 東大寺や日光東照宮などは、文化資源の理解促進の場と休息の場を提供する拠点をも有する

3-2. 課題

高野町内の文化観光の課題は、以下の通り分類できる。

◆課題 1 豊富な文化資源の魅力を十分に伝えられていない

総本山金剛峯寺は、長い歴史と伝統により醸成された、深く多彩な文化資源が国宝・重要文化財を含めて多数蓄積されているが、来訪者は「奥之院」や「金剛峯寺」の主要な観光スポットを巡るのみで高野山全体の文化価値を深く理解することなく帰ってしまう傾向がある。地域文化観光の機運を高めるには、まずは高野山の持つ世界遺産としての高い文化的価値を正しく、より深く理解してもらうためのストーリーやプログラムを造成し、文化資源の関連性も含めて、来訪者に対して訴求する必要がある。

<ターゲット>

- ・まずは既存来訪者の中年層とシニア層の一般観光客。徐々に若年層に広げていく。
- ・企業の経営層や幹部候補生。

◆課題2 来訪場所が偏り、周遊を促せていない

高野町の文化資源は地域内に多数分散しているため、事前に深い理解がある場合を除き、その訪問先は「奥之院」や「金剛峯寺」といった主要スポットに限られてしまう傾向にある。そのため事前学習がなくとも周遊を導くような現地での情報提供、快適な周遊を実現する交通・飲食・物販・宿泊事業者との連携を強化する必要がある。周遊により高野山の魅力を深く知ってもらうことで、ファン化・宿泊リピーター化を狙っていく。

<ターゲット>

- ・まずは既存来訪者の中年層とシニア層の一般観光客。徐々に若年層に広げていく。

◆課題3 滞在したくなるような飲食・体験サービスが不足

飲食・物販・宿泊事業者との連携を強化することにより、文化観光体験を拡充できると考える。高野山の文化を体感する飲食メニューやお土産商品の開発、宿坊と連携した高野山の魅力伝達プログラムなど、高野町の豊富な文化資源の魅力を活用したサービスメニューの拡充を図る。

<ターゲット>

- ・まずは既存来訪者の中年層とシニア層の一般観光客。徐々に若年層に広げていく。

◆課題4 増加したインバウンド客への多言語対応やサービスが不足

令和元年まで宿泊客数が上昇しインバウンドへの知名度が高まってきた現在においては、外国人観光客に対する十分な対応が必要である。看板やWebサイトの多言語対応だけではなく、高野山の魅力を伝えるストーリーや映像コンテンツ、特別なツアー・体験プログラムなども多言語で提供し、個々のニーズにも対応。外国人来訪者のファン化・口コミ促進により、さらなる来訪者やリピーターの拡大を図る。

<ターゲット>

- ・インバウンド（特に欧州）。文化好きの知識富裕層を含む。

これらの課題を解決することで、豊富な文化資源の理解促進や来訪の満足度向上に貢献でき、宿泊客や滞在時間の増加につながることで、文化観光の活性化を図ることができる。

3-3. 文化観光拠点施設としての機能強化に向けて取組を強化すべき事項及び基本的な方向性

◎基本方針

高野山の魅力は、文化資源の豊富な境内を回り自ら五感で感じるところにこそある。しかしながら現状の根深い課題は、新規の来訪客がそうした文化資源の価値を五感で感じる前に、十分に理解せずに短時間の滞在で帰られてしまい、従ってリピートもされないというところにある。

このような課題認識の下、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」を総本山金剛峯寺の付帯施設(補完施設)として新設し、有形・無形文化資源の魅力をまずはこの施設で五感を使って感じて頂くことで、「高野山全体の魅力はこうした五感をフルに使って文化資源の価値を感じることなんだ」、「見て観察して、耳を澄まして、味わいを楽しみ、香りに気づき、肌に触れ、そこから、五感を持つ人間である自らが、歴史の中の人の営みの産物である文化資源の価値を五感で感じとることが高野山の魅力を感じることに繋がるんだ」ということに気づいて頂き、山内の他の文化資源を巡るきっかけ、周遊のための動機づけを得て頂く場と位置づける。その結果として当地の文化観光価値の向上につなげていく。

こうした山内のリアルな文化資源とデジタルの補完施設とが、ストーリーで繋がり合って周遊導線を作り上げていくことを、今回の基本方針とする。

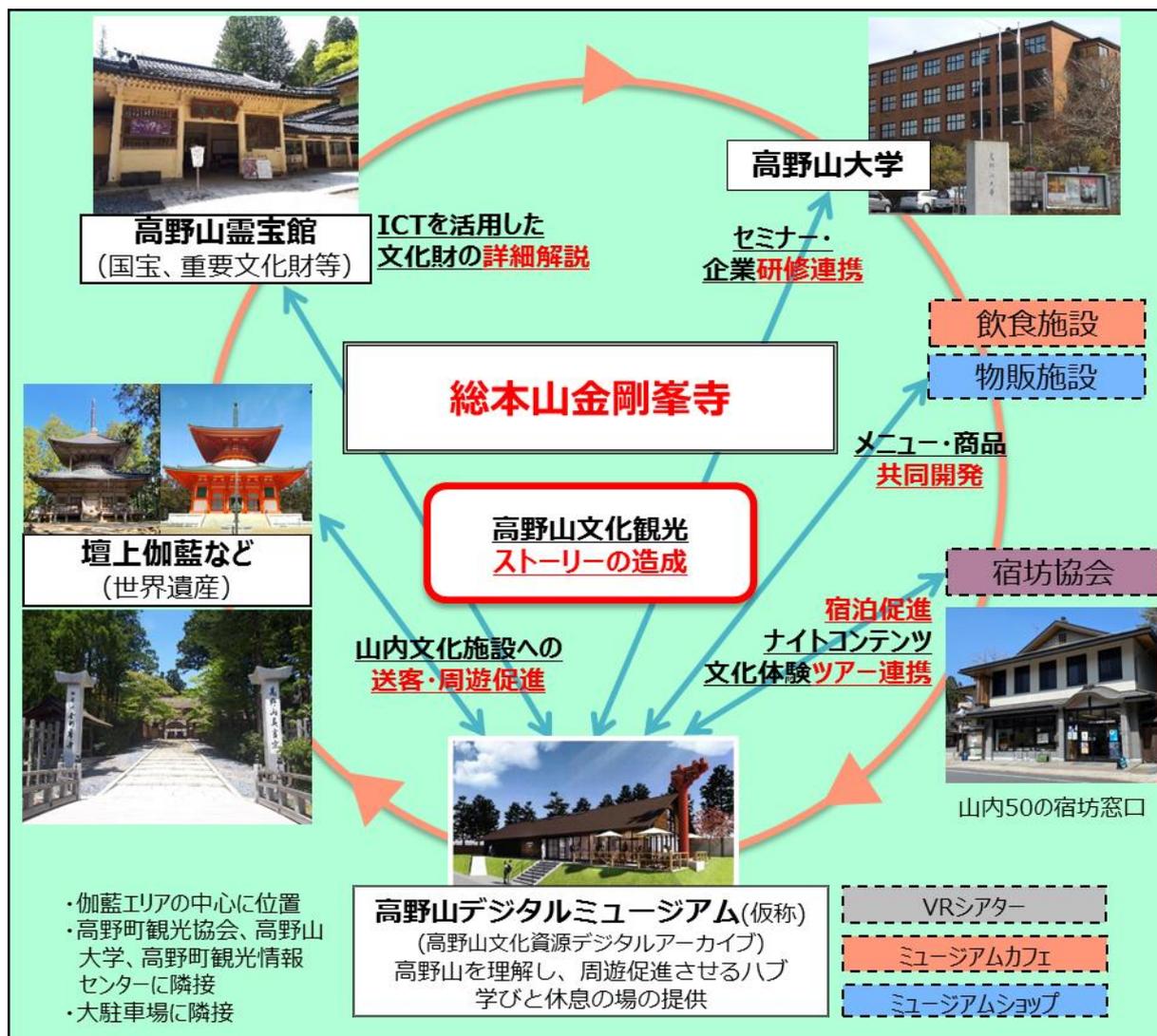
① 「高野山文化観光ストーリー」の造成による五感をフル稼働した理解の促進・魅力の伝達

高野町内の豊富な文化資源の文化的魅力、世界遺産としての文化的価値を五感を使って深く理解できるストーリーを「高野山文化観光ストーリー」として造成し、ストーリーに基づく施策パッケージを企画し実現していく。

まずは壇上伽藍を含む西方エリアの周遊を促す文化観光ストーリーにフォーカスする。

② 理解・周遊促進の補完的拠点づくり

ストーリーに基づく周遊のため、まずは高野山文化を楽しく学べ、また旅の休息と地域コミュニケーションができる拠点「高野山デジタルミュージアム(仮称)」を開設。当施設をハブに各事業者が連携した魅力発信と周遊促進により、滞在時間・消費金額の増加、来訪者のファン化・リピーター化につなげる。



◆取組強化事項1：魅力ストーリー造成と伝達のための拠点機能開発とプログラム開発（課題1関連）

※インバウンドへの対応については「取組強化事項4」を参照

【魅力ストーリーの造成】

- ・事前知識がないと理解が難しい高野山の豊富な文化資源の見どころ・魅力について分かりやすく伝える「高野山文化観光ストーリー」を造成する。
- ・まずは高野町内で8割以上の文化資源を保有しながら来訪割合が著しく低い「壇上伽藍を含む西方エリア」においてストーリー造成を行い、それを徐々に「奥之院エリア」へと広げていく。

- ・ 作成したストーリーは、本計画における事業、例えばVRコンテンツとして可視化したり、文化観光ツアーでのプログラムに活用するなど、具体事業に落とし込んでいく。

【高野山文化体験の出発点となるシアターの開設】

作成した魅力ストーリーに則した高品質なVR等のデジタルコンテンツを投影して圧倒的な没入感と臨場感を創出しながら、高野山の文化資源について詳しく解説するナビゲーターによるライブ解説で高野山の深い魅力を伝えストーリーの理解を促すことにより、壇上伽藍を含む西方エリアを中心とした高野山内の文化資源への周遊を動機づける。

- ・ 魅力ストーリーに則したVR等のデジタルコンテンツと、高画質な描画を最大限に活かす 280 インチ大画面
- ・ ナビゲーターによるライブ解説で壇上伽藍を含む西方エリアの文化資源への理解促進



シアター内観イメージ



高野山オフィシャルVRコンテンツイメージ

【宿坊等宿泊施設との連携】

- ・ 宿泊者ならではのナイトイベントや早朝体験などを、各宿坊と連携の上、宿泊者へのオプションとして定期的に展開する。具体的にはVR映像やデジタルアーカイブ画像を用いた宿坊等でのイベント事業など、宿泊施設と連携したサービスメニューを拡充。文化資源を見る前の事前学習や、見た後の体験内容を深めるものとして提供し、宿泊者の文化資源の魅力理解を深める。

【高野山の魅力を深く伝える文化観光ツアー・企業研修の開発】

- ・ VR コンテンツ等、文化の理解を深めるデジタルコンテンツを山内文化体験と組み合わせ、リアルとデジタルの融合による文化観光ツアーや企業研修を実施。企業研修においては、高野山学園とも連携して内容を深めていく。
- ・ 文化観光ツアーや企業研修に向けて、文化資源の多彩な価値を、来訪者の知識度合いや関心度合いに応じて適切に伝える観光ガイド人材を、高野山大学の知見も活用しながら育成する。ガイド育成にあたっては、VRコンテンツ等のデジタルコンテンツも活用していく。
- ・ 魅力的な体験コンテンツを増やすことで滞在時間を延伸させ、宿泊客の増加にもつなげる。
- ・ 冬季の入込客対策として、企業に冬季の研修提案をしていく。

【交流イベントの実施】

- ・ 「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアタースペースを活用した交流イベントを実施。高野山内僧侶や高野山学園高野山大学の講師と、国内外の観光客や子供との交流を行う。
- ・ 毎月21日の「報恩高野市」との連携も図り、イベントを契機にしたエリア全体の活性を図る。

◆取組強化事項2：理解と周遊を促す拠点と動線をつくる（課題2関連）

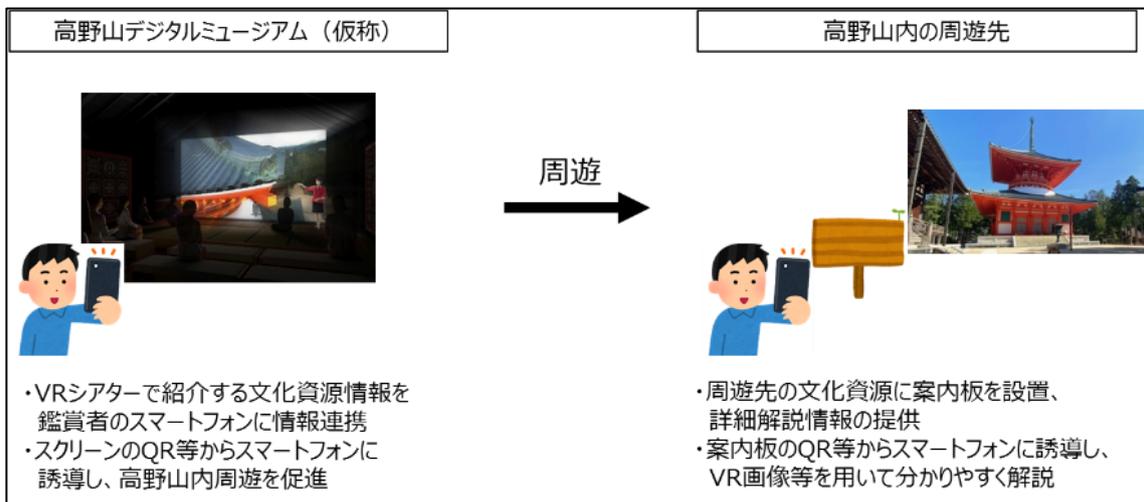
※インバウンドへの対応については「取組強化事項4」を参照

【拠点づくり】

- ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」は高野山文化漂うハイエンドな空間として演出し、来訪者がVR等のデジタルコンテンツ鑑賞後に山内の文化資源をどう巡るか確認したり、ゆったりと情報を収集・整理して思考を整理したり、旅の終わりに余韻を楽しみ次回の来訪に思いを馳せるような、文化資源を五感で体感できる休息&コミュニケーションスペースとして機能させる。
- ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」内に設置するカフェでは、高野山の四季折々の風景や行催事・イベントの様子などを映像で紹介し、異なる季節の再来訪を動機づける。

【動線づくり】

- ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」を本エリア観光の入口と位置づけ、南海電鉄や南海りんかんバスと連携した高野山駅からの動線づくりを行う。
- ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」で上演するVR等のデジタルコンテンツで紹介した文化資源情報を、鑑賞者のスマートフォンに情報連携することで、鑑賞後の山内周遊を促進させる。
- ・周遊先の文化資源に案内板を設置し、詳細解説情報の提供を行う。スマートフォンで読み取るQRコード等でWebサイトへ誘導、視覚的にも分かりやすい解説を行う。



- ・南海りんかんバスや、高野町観光協会が運営するレンタサイクルや小型電気自動車「EV こうやくん」と連携した周遊コースを作り、二次交通による地域周遊を活性化させる。
- ・南海電鉄の「高野山・世界遺産きっぷ」など高野山内の文化施設の周遊パスに「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアター鑑賞チケットの割引を組み込むなどのチケット施策を検討実施し、周遊活性を図る。特にシアター鑑賞後の周遊コースはVR等のデジタルコンテンツとの連動を軸にし、根本大塔・西塔・霊宝館等の壇上加藍を含む西方エリアの周遊を促進することを中心とする。

※ 周遊のイメージ例

- ① 「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアターにて、壇上加藍の不動堂の紹介と合わせ、鑑賞者のスマートフォンに、霊宝館収蔵でかつて不動堂に奉安されていた運慶作の八大童子(国宝)の情報を提供。
- ② また、同様にシアターにて、壇上加藍の孔雀堂の紹介と合わせ、鑑賞者のスマートフォンに、霊宝館収蔵でかつて孔雀堂の本尊であった快慶作の孔雀明王像(重要文化財)の情報を提供。
- ③ ①と②の紹介と合わせて運慶と快慶という仏師について物語的に説明があり、さらに快慶については霊宝館に、四天王立像や深沙大将立像・執金剛神立像(重要文化財)といった躍動美豊かな作品が収蔵されているという情報を提供。

といった霊宝館に対する関心を高め周遊のきっかけをつくる工夫を行う。さらに、

- ④ 上記シアターから誘導された来訪客に対して、霊宝館内に、例えば四天王立像や深沙大将立像・執金剛神立像近くにQRコードがついた案内板（パネル）を置き、Web上でその文化資源についての理解を深める解説や、さらに快慶についての解説、さらにWeb内で遷移し、霊宝館HPの運慶や運慶作の八大童子（国宝）の情報等も提供することで、魅力をもって興味・関心と呼ぶ工夫を行う。

◆取組強化事項3：飲食・物販・体験サービスを拡充する（課題3関連）

※インバウンドへの対応については「取組強化事項4」を参照

- ・高野山の主要文化財をモチーフにしたものや、地域産品を活用し高野山伝統の精進料理をテーマとした和モダンのオリジナル飲食メニューの開発や、ここでしか手に入らない（希少価値が高い）高野山の文化体験を持ち帰れるオリジナル商品の共同開発を行い、販売提供する。
- ・商品開発に当たっては、地域商店などの周辺観光施設・事業者とワークショップを行うなどの連携を積極的に行う。
- ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」を拠点に、地域商店と連携した周遊企画を実施する。

◆取組強化事項4：インバウンド客への多言語対応やサービスを強化する（課題4関連）

- ・VR等の上映デジタルコンテンツの多言語化はもちろん、ツアーなどの体験プログラムでは、通訳ガイドが多彩な文化資源の価値を来訪者の知識度合い・関心度合いに応じて共感を伴いながら伝えていくようにする。通訳ガイドが外国人目線で仏教文化を理解するために、高野山学園高野山大学の外国人講師や、山内寺院の外国人僧侶などを講師とする通訳ガイド育成の場と機会を設ける。
- ・インバウンドの知識富裕層が満足する上質で特別な文化観光体験プログラムを開発する。VR等のデジタルコンテンツの貸切鑑賞や、通常はアクセスできない場所や人の訪問を提供する。富裕層旅行専門事業者と連携して、富裕層のニーズに合うように開発していく。
- ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」の文化資源を紹介するWebサイトで、訴求効果の高いコンテンツの多言語発信を強化し、国内外への魅力発信を行う。
- ・高野町内の豊富な文化資源の理解と周遊促進を図るために、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」において、施設内ではWi-Fi環境の整備を行うとともに、国際ローミングやSIMカードを使わないインバウンド向けに小型タブレット端末（スマートフォン等）の貸し出しを行う。

まとめ

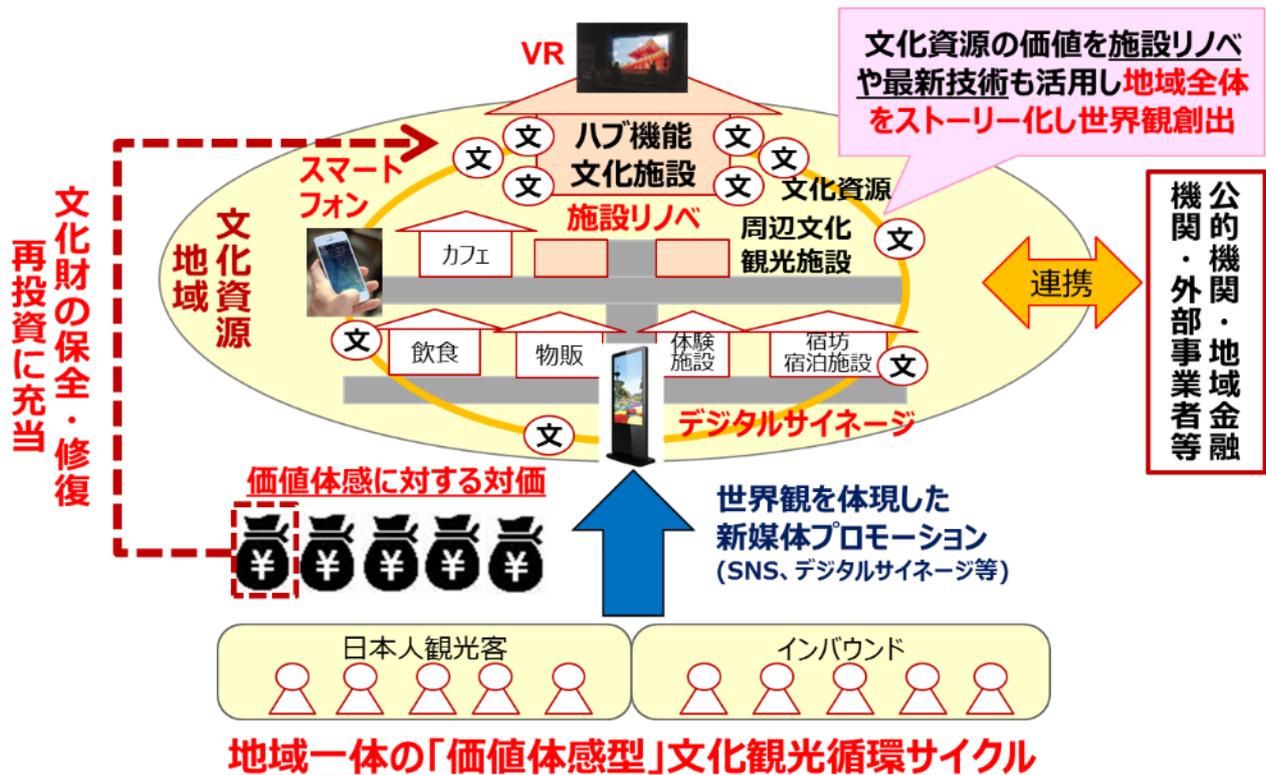
- 高野山の持つ文化的魅力をより深く理解できるための「高野山文化観光ストーリー」を造成
- 「高野山デジタルミュージアム(仮称)」が山内文化観光の補完拠点として機能、4つの取り組みにおいて中心的な場となる
 - ①VRコンテンツを活用した深い文化理解
 - ②リアルな文化資源を周遊するための拠点と動線づくり
 - ③飲食・物販・体験サービス拡充
 - ④多言語対応（英語・フランス語・中国語等）、Wi-Fi等のインフラ整備
- 山内事業者との連携を含めたエリア活性化を図る

3-4. 地域における文化観光の推進への貢献

- ・高野町では、文化観光産業が主要な産業であるが、滞在時間が短く、来訪者数に比して観光消費額が低く、新規来訪客がリピーターにならないという状況にあった。
- ・今回、本事業の基本方針である、「高野山の豊富な文化資源の五感をフル稼働した魅力伝達のためのストーリー造成」や「分散する文化資源の周遊のための補完的な拠点づくり」としての各種施策を、本事業運営の中心的役割を果たす株式会社DMC高野山と、金剛峯寺、関連寺院、高野町や高野町観光協会、飲食・宿泊・交通・物販事業者等の地域ステークホルダーとが連携して、回遊性を向上させることで地域全体の魅力を増進。高野山来訪客増と滞在時間増による観光消費額の増大とそれに伴う雇用の促進といった文化観光産業のさらなる活性化に寄与していく。

3-5. 文化の振興を起点とした、観光の振興、地域の活性化の好循環の創出

- ・周遊ハブ機能を有する補完施設の整備や、VR等のデジタルコンテンツ、スマートフォン経由のWebサイト、デジタルサイネージや高精細大型ディスプレイ等の最新技術も活用して、高野山の有する豊富な文化資源の価値を地域全体でストーリー化して面的に活性化し、収益の一部を文化財の保護・保全に充てる、地域一体の「価値体感型」文化観光循環サイクルを創出する。このサイクルの実現により、文化の振興と観光の振興が両立して地域の活性化を実現する。
- ・また、文化資源は公開するほどに傷むリスクがあり、文化資源の保存と活用は相反する部分を有するが、文化資源のデジタルアーカイブとVR等を活用した公開は、文化資源の保存と活用を両立させ、文化観光の推進において有効な手法であると考察する。



4. 目標

目標①：文化資源の魅力理解度とプログラム満足度（課題 1. 魅力伝達関連、課題 2. 周遊関連、取組強化事項 1. 魅力伝達関連、取組強化事項 2. 周遊関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

考え方：

- ・ ツアー、研修、イベント、シアター鑑賞の各プログラムにおける、参加者の「文化資源の魅力理解度」「プログラム満足度」をアンケートで5段階評価（満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満）

把握方法：

- ・ 各プログラムにスマートフォン等経由での Web サイトにアクセスする内容を設け、プログラム終了後に当該 Web サイトでのアンケートを行う。
以下の目標は各プログラム評価の平均。（上段が「文化資源の魅力理解度」下段が「プログラム満足度」の平均評点）

年度	実績		目標				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
目標値(点)							
文化資源の魅力理解度			4.1	4.2	4.3	4.4	4.5
プログラム満足度			4.1	4.2	4.3	4.4	4.5
事業1-①： 高野山文化観光ストーリー造成事業			ストーリーの造成	継続	継続	継続	継続
事業1-②： 高野山の魅力を深く伝える文化観光ツアー・企業研修事業			テスト実施	観光ツアー・企業研修開始	継続	継続	継続
事業1-③： 高野山の魅力を深く伝える文化観光ガイド育成事業			観光ガイド研修会の実施	継続	継続	継続	継続

事業1-④ ICTを活用した宿坊等宿泊施設でのイベント事業					イベントの実施	継続	継続
事業1-⑤： 高野山の魅力を理解・体感する交流イベント事業				イベントの実施	継続	継続	継続
事業2-①： 高野山文化観光ストーリーに基づくデジタルコンテンツ上演事業			シアター上映開始	継続	継続	継続	継続
事業6-①： 「高野山デジタルミュージアム(仮称)」シアター設備事業			文化複合施設開設 シアター開設				

目標②：総本山金剛峯寺（高野山）への来訪者数（課題1：魅力伝達関連、課題2：周遊関連、取組強化事項1：魅力伝達関連、取組強化事項2：周遊関連）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

考え方：

- ・総本山金剛峯寺（高野山）への来訪客数の増加。2023年にコロナ前の2019年の値に戻し、2024年よりインバウンドの増加率（目標④参照）と合わせ年約10%の増加を目指す（増分はインバウンド分と仮定）。

把握方法：

- ・高野町とも連携し、和歌山県観光客動態調査報告書より把握。（※2020年の実績値は未把握）

年度	実績		目標				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
目標値（万人）	148.2	****	130.0	140.0	148.2	163.0	180.0

事業2-②： ICTを活用した高野山内 周遊促進事業			サイトの立ち上げ スマホ連動案内板 の設置	コンテンツ改良 スマホ連動案内板 の設置(継続)	コンテンツ改良 スマホ連動案内板 の設置(継続)	コンテンツ改良 スマホ連動案内板 の設置(継続)	コンテンツ改良 スマホ連動案内板 の設置(継続)
事業3-①： 案内看板設置による周 遊促進事業				案内看板の設置	追加設置、内容更新	追加設置、内容更新	追加設置、内容更新
事業3-②： レンタサイクルや小型 電気自動車の利用活性 化による周遊促進事業					サービス連携開始	継続	継続
事業3-③： 周遊チケットや共有チ ケットの拡充による周 遊促進事業				チケット連携開始	継続	継続	継続

目標③：来訪者消費金額（課題3：サービス拡充、取組強化事項3：サービス拡充）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

考え方：高野町全体の来訪者消費額の増加。2023年にコロナ前の2019年の値に戻し、2024年よりインバウンドの回復(目標④参照)が全体の来訪者消費金額を押し上げることで年約10%ずつの増加を目指す（増分はインバウンド分と仮定）

把握方法：年1回、高野町及び観光協会による対面によるアンケート調査を実施。（※2020年の実績値は未把握）

年度	実績		目標				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
目標値（百万円）	6,491	****	5,700	6,100	6,491	7,100	7,800
事業4-①： 山内文化資源の魅力を 活用したオリジナル商 品の共同開発事業			オリジナル商品の 共同開発	継続	継続	継続	継続

事業4-②： 「高野山デジタルミュージアム(仮称)」カフェ企画・開発事業			カフェ企画・開発	継続			
事業4-③： 「高野山デジタルミュージアム(仮称)」ショップ企画・開発事業			ショップ企画・開発	継続			
事業6-②： 「高野山デジタルミュージアム(仮称)」カフェ・ショップ設備事業				カフェ・ショップ開設			

目標④：総本山金剛峯寺（高野山）への外国人宿泊者数の増加（課題4：多言語、取組強化事項4：多言語）

（目標値の設定の考え方及び把握方法）

考え方：大阪・関西万博が開催される2025年に、コロナ前の2019年の値に戻すことを大目標とし、2021年は前半はコロナの影響が強く残ると想定し目標の約10%、2022年は約50%、2023年は約70%、2024年は約90%と想定。2026年以降は2026年～2028年は年約10%ずつの増加、2029年・2030年は年約20%ずつの増加により、10年後には2019年度比2倍を目指す。

把握方法：高野町による動態調査（※2020年の実績値は未把握）

年度	実績		目標				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
目標値（千人）	108.9	****	10.0	50.0	75.0	95.0	109.0
事業2-③： 高野山の魅力を伝える多言語コンテンツ造成事業				サービス開始	継続	継続	継続

事業2-④： 高野山の魅力を伝える 通訳ガイドツアーサー ビス事業				テスト実施	サービス開始	継続	継続
事業2-⑤： 高野山の魅力を伝える 通訳ガイド育成事業				通訳ガイド研修会 の実施	継続	継続	継続
事業2-⑥： 上質なインバウンド観 光サービス事業				テスト実施	サービス開始	継続	継続
事業5-①： 多言語に対応したWeb サ イト制作と国内外プロ モーション事業					多言語 Web サイト制 作 プロモーション開 始	改良	改良
事業5-②： 交通動線と連携したマ ーケティングプロモー ション事業			キービジュアルの 製作	継続	継続	継続	継続
事業6-③： 文化観光周遊拠点とし ての付帯サービス強化 事業			Wi-Fi 設置 多言語サイネージ 設置	小型タブレット端 未配備			

5. 目標の達成状況の評価

高野町観光協会が中心となり、4半期に1度の観光協会理事会にて、目標値の達成度・実績値の伸長度合いなどの指標の分析を行う。来訪者へのアンケート調査・関係ステークホルダー等への聞き取り調査も年1回行って課題を抽出し、改善策を立案。目標達成に向けたPDCAを回す。

6. 文化資源保存活用施設

6-1. 主要な文化資源についての解説・紹介の状況

6-1-1. 現状の取組

◆文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

- ・金剛峯寺や伽藍等、主要スポットには看板等を設置し、テキストによる解説を行っている。
- ・高野山宿坊協会では、金剛峯寺が主催する試験に合格した「金剛峯寺境内案内人」による個人ガイド（有償）の紹介も行っている。



看板

◆情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

- ・総本山金剛峯寺の宿坊案内や観光案内業務を担う高野山宿坊協会にて、高野山のより深い理解促進のため、有償で音声ガイド機の貸出サービスを行っており、金剛峯寺や壇上加藍、奥之院、高野の町家など、山内103か所の見どころを約90分の音声で解説している。



案内ガイド機



看板には音声ガイド番号を付記

◆外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

- ・金剛峯寺や壇上加藍、高野山霊宝館では、日本語と英語の併記による説明表記を行っている。
- ・高野山宿坊協会が配布している観光パンフレットは、日本語・英語・フランス語・スペイン語・中国語の5か国語で展開している。
- ・高野山宿坊協会にて有償で貸し出している音声ガイド機は、日本語・英語・フランス語・中国語・韓国語の5か国語に対応している。

このように情報の解説・紹介を多言語で行っているが、日本語文をそのまま翻訳しただけのものも多く、外国人来訪者の国の文化に即した適切な解説・紹介には至っていない。

◆文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介（施行規則第1条第1項第1号）

【魅力伝達のためのストーリー、プログラム開発、ガイド等の人材を強化する】

・高野山文化観光ストーリーの造成 事業1-①

事前知識がないと理解が難しい高野山の文化資源の見どころ・魅力について分かりやすく伝えるストーリーを造成する。まずは高野町内で8割以上の文化資源を保有しながら有償拝観者数の割合が著しく低い壇上伽藍を含む西方エリアにおいてストーリー造成を行い、それを徐々に奥之院エリアへと広げていく。

造成したストーリーは、本計画における事業、例えばVR等のデジタルコンテンツとして可視化したり、文化観光ツアーでのプログラムに活用するなど、具体事業に落とし込んでいく。

個別の具体事業を結ぶハブとして、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」を位置づけ、ストーリーをシアターで学び、各文化施設への周遊の動機づけを行う。

・高野山の魅力を深く伝える文化観光ツアー/企業研修の実施 事業1-②

総本山金剛峯寺の文化を深く理解する文化観光ツアーや企業研修を実施する。山内文化体験にVR等のデジタルコンテンツを活用した事前学習を組み合わせ、事前知識や解説者なしでは理解の難しい文化資源のみどころを伝える。

・観光ガイドの育成 事業1-③

高野町内の文化資源の多彩な価値を、来訪者の知識度合いや関心度合いに応じて適切に伝える文化観光ガイドを育成する。「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でVR等のデジタルコンテンツを用いたガイド向け研修を実施したり、VR等のデジタルコンテンツの内容に沿って造成した文化観光プログラムの説明会を開催するなど、山内の文化観光サービス水準のさらなる高度化を図る。

・ICTを活用した宿坊等宿泊施設でのイベント事業 事業1-④

山内の宿坊等宿泊施設に高精細モニター及びVRコンテンツ等の映像素材を貸し出し、僧侶や専門ガイド等が講師を務める高野山文化に関する有償セミナー等、宿泊客への早朝・夜間時間帯の付加価値プログラムの提供を行う。

・交流イベントの実施 事業1-⑤

高野山に対して深い知識を持つ専門家ではない一般観光客にも分かりやすいよう、視覚に訴えながら総本山金剛峯寺の文化資源を紹介するイベントを実施する。具体的には、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のスペースを活用しVR等のデジタルコンテンツ上映、トーク、飲食などを組み合わせた誰でも参加しやすい形態にし、僧侶・高野山学園高野山大学・ガイド等と来訪客との交流のなかで文化資源の魅力を伝える。

◆情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第2号）

【ストーリーを伝えるVR等デジタルコンテンツの活用、現地周遊を促進するスマホ施策の強化】

・高野山文化観光ストーリーに基づくデジタルコンテンツ上演事業 事業2-①

高野山の文化資源をストーリー仕立てに親しみやすく表現したVR等デジタルコンテンツを「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアターで定期上演する。事前知識なく観光するだけでは気が付きにくい文化資源の魅力や見どころを伝え、来訪満足度向上や山内周遊観光の動機づけとする。

・ICTを活用した高野山内周遊促進 事業2-②

「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でのVR等デジタルコンテンツ上映では、紹介した文化資源の詳細情報を、鑑賞者のスマートフォンにWeb連動で表示させる機能をつける。山内各地の文化資源案内看板を設置し、文化資源の情報以外にも、関連する他の山内文化資源の解説や場所を、QRコードなどでスマートフォンに表示できる仕組みを提供することで、文化資源の詳しい解説やアクセス情報などを鑑賞者にリアルタイムに届け、周遊観光を促す。

・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」シアター設備 事業6-①

高野山を理解し、学び、周遊を動機づける山内観光の入口として、また周遊時の休息や憩いの拠点として設置する「高野山デジタルミュージアム(仮称)」に、シアターを設置する。シアターではVRコンテンツを定期上映するほか、可動式の客席でイベント等にも柔軟に場所を活用できるようにし、文化観光推進事業者との連携を促す。

◆外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介（施行規則第1条第1項第3号）

【魅力を伝達するストーリーやツアープログラムの多言語対応、通訳ガイドの強化】

・多言語コンテンツ造成 事業2-③

「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアターで上演するVR等のデジタルコンテンツを多言語化する。シアターでのガイド(ナビゲーター)上演を英語、宿泊来訪者の多いフランス語(※P.9 宿泊者の割合を参照)、中国語に対応させる。多言語化においては、日本在住歴が長く日本文化に精通した外国人有識者・通訳者・ライターを起用するなどし、諸外国からみた文化的差異を踏まえた質の高い翻訳を実施することで、訪日外国人の鑑賞体験の質を向上させる。

・多言語ガイドツアー事業 事業2-④

インバウンド向けガイドツアーを実施する。VRや映像等のデジタルコンテンツを活用し、聴覚だけでなく視覚に訴える魅力伝達によるガイドツアーを文化観光事業推進事業者と連携して造成し、訪日外国人の観光体験の質を向上させる。

・多言語ガイド育成 事業2-⑤

高野山内の魅力を効果的に伝える、多言語ガイド人材を育成する。外国人目線で仏教文化を理解するために高野山学園高野山大学の外国人講師や、山内寺院の外国人僧侶などを講師とした多言語ガイド育成の機会を設ける。

・上質なインバウンド観光サービス事業 事業2-⑥

インバウンドの知識富裕層の興味に合わせた文化観光体験のプログラム提供と解説を行う。

・文化観光周遊拠点としての付帯サービス強化事業 事業6-③

高野町内の豊富な文化資源の理解・周遊促進を図るために、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」において、施設内ではWi-Fi環境の整備を行うとともに、周遊先ではWi-Fi圏外の場所も複数あるため、特に欧米系で国際ローミングの問題から個人のスマートフォンが使えないインバウンド向けに貸出用の小型端末(スマートフォン等)の配備を行う。

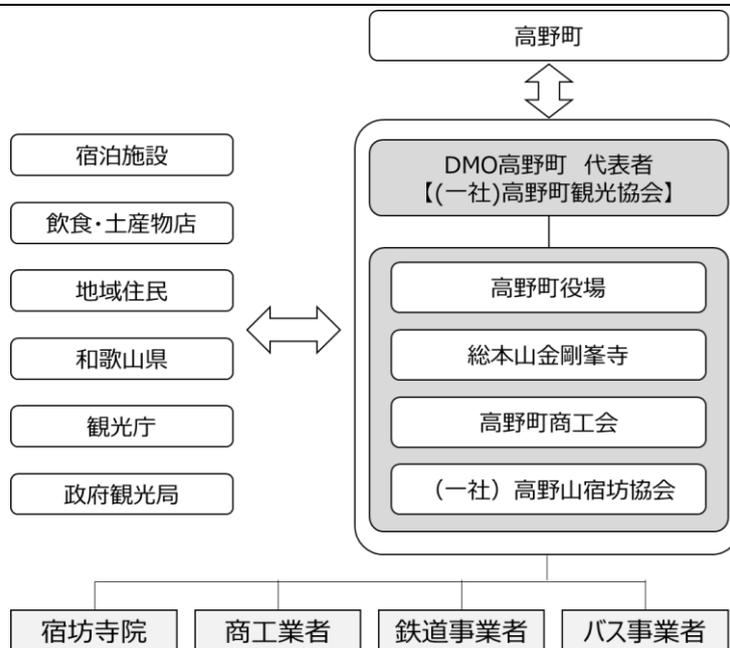
6-2. 施行規則第1条第2項第1号の文化観光推進事業者との連携

6-2-1. 現状の取組

◆文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築

高野町内の主要組織と関連事業者で構成。

高野町観光協会が母体となり、総本山金剛峯寺を含む高野町、高野山宿坊協会、高野町商工会、宿坊寺院49件、商店等54件、地域企業等13件が社員として参画。官民が密接に連携した運営を実施。



【合意形成の仕組み】

- ・ 本会の社員[会員]と情報を密に共有し合意形成の機能を有する社員総会を年1回開催。
- ・ 本法人運営の意思決定機関である理事会定例会を年4回実施設置。理事会の下に専門部会（機能戦略部・渉外広報部・事業推進部）を設置。

◆文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

【各種データ等の継続的な収集・分析】

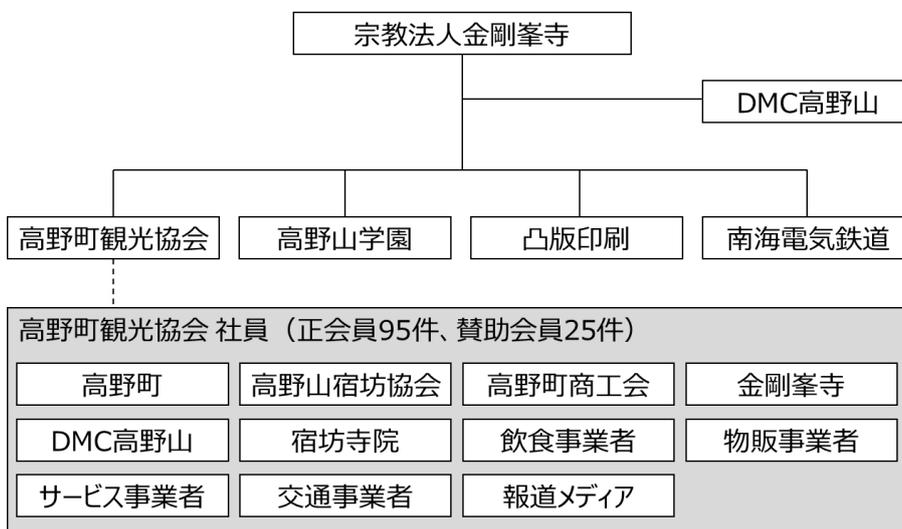
観光協会独自のアンケート調査の他、高野町や宿坊協会と連携した観光データの収集・分析を行っている。

◆文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

年1回開催する社員総会にて、事業の方針策定ならびにKPIの設定を行う。その方針を踏まえ、高野町の主軸となる組織ならびに高野山の参拝観光に従事する者等で構成された理事会の年4回の定例会にて具体的施策としてPDCAを回していく。

6-2-2. 本計画における取組

◆文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築



◆文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析

宗教法人金剛峯寺でのデータ収集・分析、高野町観光協会でのデータ収集・分析と合わせ、さらに新設する「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアター入場者数やアンケート、イベントやツアーのアンケートなど本取組の各施策のデータ収集・分析を組み合わせ、多面的な分析、および定点分析を行う。

◆文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立

観光協会でのKPIに、本施策のKPIである、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」の満足度やカフェ・ショップの売上も追加。データ収集・分析同様に、多面的および定点での仮説検証のPDCAを回す。

6-3. 施行規則第1条第2項第2号の文化観光推進事業者との連携

6-3-1. 現状の取組

◆文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

【DMC高野山との連携】

・2020年11月新設組織のため、具体実績なし。

【高野山学園との連携】

- ・高野町・高野町教育委員会の連携・協力により、歴史と文化によって育まれた高野山の魅力を体系的に学び、再発見することを目的として、開講する生涯学習講座「高野山学」を2004年より実施。
- ・高野町、総本山金剛峯寺、東京大学先端科学技術研究センターと合同で、学術の振興、人材の育成、産業の発展及び活力ある個性豊かな地域づくりに資することを目的に、2020年10月に連携協定を締結。1200年の歴史を有する高野山の精神文化と先端研の先端技術やアートの融合による新たな研究分野の進展及び「持続的なインクルーシブ社会の創造」をめざして活動中。
- ・高野町教育委員会と協力し、月に一度「放課後子ども教室」を開講。子どもたちと一緒に宿題をしたり、遊んだりといった地域交流を行っている。

【凸版印刷との連携】

- ・凸版印刷は1997年から文化財のデジタルアーカイブデータの公開手法としてVR技術を用いた「トッパンVR」を開発。国内外の貴重な著名文化財をテーマとして50本以上のVR作品を製作。2007年には、いち早く4K超高精細VRの開発・公開を行い、近年では12KVRやHMDなど次世代VRの開発に取り組んでいる。
- ・経年劣化の生じた金剛峯寺所蔵の重要文化財「両界大曼荼羅(血曼荼羅)」について、2007年から本格的な復元に着手。X線撮影などで約1900体の仏像や紋様などを解明し、デジタルデータを基に特殊プリント技術を駆使し、平安末期の極彩色「血曼荼羅」を甦らせ、2015年7月に奉納した。
- ・貴重な文化資源を守り伝えるという観点から、壇上伽藍の諸堂塔や石塔類等の建立物や仏像などを対象に高品位デジタルアーカイブを実施。VR作品を制作中。

【南海電鉄との連携】

- ・南海電鉄にて、電車割引往復乗車券や高野山内バス2日フリー乗車券、拝観施設割引サービス券、山内のお土産飲食割引サービス券がセットになった「高野山・世界遺産きっぷ」を販売。
- ・南海電鉄にて、橋本駅から高野山駅までをつなぐ観光列車「天空」を運行。山内での精進料理とセットにした日帰りプランを列車運行日に販売。

- ・南海電鉄グループ会社の南海りんかんバス株式会社では、山内バス1日フリー乗車券に加えて山内事業者から拝観施設割引サービスと山内事業者からの特典が受けられる「一日フリー乗車券」を販売。

6-3-2. 本計画における取組

◆文化観光を推進するための交通アクセスの充実や商店街を含めた賑わいづくりなど、文化観光の推進に関する事業の企画・実施

【DMC高野山との連携】

・案内看板設置による周遊促進 事業3-①

高野山エリア内の文化観光施設間の周遊を促す施策と、山内文化施設の案内看板を連携させる。

・レンタサイクルや小型電気自動車等の利用活性化による周遊促進 事業3-②

「高野山デジタルミュージアム(仮称)」を起点とした山内周遊を促す施策と連動し、高野町観光協会が運営するレンタサイクルや小型電気自動車の利用活性化を狙う。具体的には、周遊コースの情報発信やシアター・カフェの利用によるレンタサイクル・小型電気自動車の割引クーポンの発行などの施策連動を行う。

・山内文化資源の魅力を活用したオリジナル商品の共同開発事業 事業4-①

山内事業者と連携し、高野山ならではのオリジナル商品の共同開発を行い、開発商品を「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でも販売する。

・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」カフェ企画・開発事業 事業4-②

高野山の1200年の営みに浸ることができる飲食体験を提供するために、世界観に浸り落ち着くことができる環境の定義や、定義された環境を空間に表現する空間演出の企画・ディレクションを行う。

・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」ショップ企画・開発事業 事業4-③

高野山の1200年の営みを記念として手に入れる体験を提供するために、世界観に浸り落ち着くことができる環境の定義や、定義された環境を空間演出の企画・ディレクション(高野霊木等を使用した商品棚で演出等)を行う。

・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」へのカフェ・ショップ設置 事業6-②

高野山を理解し、学び、周遊を動機づける山内観光の入口として、また周遊時の休息や憩いの拠点となる「高野山デジタルミュージアム(仮称)」に、DMC高野山が運営するカフェ・ショップを設置する。

【高野山学園との連携】

・高野山の魅力を深く伝える文化観光ツアー/企業研修の実施 事業1-②

総本山金剛峯寺の文化を深く理解する文化観光ツアーや企業研修において、「高野山学」との連携を図る。

【凸版印刷株式会社との連携】

・オリジナル商品の共同開発 事業4-①

山内文化資源の魅力を活用したオリジナル商品開発において、特に文化資源財高品位複製を活用した土産物開発において凸版印刷のアーカイブ技術を活用する。

・ICTを活用した宿坊等宿泊者向けイベント 事業1-④

宿坊等宿泊施設との連携イベントにおいて、凸版印刷制作のVRコンテンツや映像素材を活用する。

【南海電気鉄道株式会社との連携】

・周遊チケットや共通チケットの販売による周遊促進 事業3-③

南海電鉄の「高野山・世界遺産きっぷ」など高野山内の周遊パスに「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアター鑑賞チケットの割引や飲食サービスの利用券などが含まれる周遊チケット施策を検討実施し、周遊促進と消費拡大を図る。

・交通動線と連携したマーケティングプロモーション事業 事業5-②

南海電鉄の車両や関西空港駅やなんば駅といった交通拠点や、電車やバス等の交通動線上において、国内外両方の乗降客に対して高野山の魅力やストーリーを伝達し、来場意向を喚起させるビジュアルを露出する。その露出シーンやターゲットに合わせた形で映像や静止画ビジュアル素材等を制作し、高野山のブランド向上、興味関心を持つきっかけの提供を図る。

7. 文化観光拠点施設機能強化事業

7-1. 事業の内容	
7-1-1. 文化資源の魅力の増進に関する事業	
(事業番号 1-①)	
事業名	高野山文化観光ストーリー造成事業
事業内容	事前知識がないと理解が難しい高野山の文化資源の見どころ・魅力について分かりやすく伝え、世界遺産としての文化的価値をより深く理解できるための「高野山文化観光ストーリー」を造成する。まずは高野町内で8割以上の文化資源を保有しながら有償拝観者数の割合が著しく低い「壇上伽藍を含む西方エリア」においてストーリー造成を行い、それを徐々に「奥之院エリア」へと広げていく。 造成したストーリーは、本計画における他の事業に落とし込んでいく。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山
実施時期	2021年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット目標	周遊ストーリーの企画を年2本造成
必要資金 調達方法	17,000千円 (内訳：7,089千円(自己資金)、9,911千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。
(事業番号 1-②)	
事業名	高野山の魅力を深く伝える文化観光ツアー・企業研修事業
事業内容	高野山内、特に壇上伽藍を含む西方エリアの文化資源の魅力を深く理解するための文化観光ツアーや企業研修の実施。 ・VRコンテンツ鑑賞を核にしたバーチャル文化体験と、山内文化体験を組み合わせる。 ・単なる物見遊山で終わる一過性の満足ではなく、文化資源の背景にあるメッセージや歴史のストーリーを伝えることで、心に深く残る精神的な満足感を提供し、再訪や家族・友人・知人の潜在顧客層への波及につなげる。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、学校法人高野山学園、南海電気鉄道株式会社、凸版印刷株式会社
実施時期	2021年度テストツアー実施、2022年度より本格運用を開始
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット目標	2021年は、パイロットプログラムをツアー1本、研修1本開発。パイロット版を効果検証し、より高度なプログラムを、2022年にツアー2本、研修2本開発する。
必要資金 調達方法	8,360千円 (内訳：4,215千円(自己資金)、4,145千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-③)

事業名	高野山の魅力を深く伝える文化観光ガイド育成事業
事業内容	高野山内、特に壇上伽藍を含む西方エリアの文化資源の魅力を深く伝える文化観光ガイドを育成。 文化観光体験の満足度を左右するガイド人材の育成が重要であることから、金剛峯寺境内案内人などを対象に、VRコンテンツを用いたガイド向け研修をシアター内で定期的実施したり、VRコンテンツのストーリーに沿って作成した文化観光プログラムの説明会を開催するなどして、エリア内の文化観光サービス水準のさらなる高度化を図る。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、学校法人高野山学園、凸版印刷株式会社
実施時期	2021年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット目標	文化観光ガイド育成プログラムを、2021年はパイロットで開発し、効果検証した上で2022年に高度版を開発。
必要資金 調達方法	4,012千円 (内訳: 2,013千円(自己資金)、1,999千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-④)

事業名	ICTを活用した宿坊等宿泊施設でのイベント事業
事業内容	山内の宿坊等宿泊施設へ、高精細モニター及びVRコンテンツ等映像素材を貸し出し、宿泊客への早朝・夜間時間帯の付加価値プログラム提供として、僧侶や金剛峯寺境内案内人等が講師を務める高野山文化に関する有償セミナーを実施。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2023年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット目標	イベント開発・実施件数を、2023年に3件、2024年に5件、2025年に7件
必要資金 調達方法	15,000千円 (内訳: 5,000千円(自己資金)、10,000千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 1-⑤)

事業名	高野山の魅力を理解・体感する交流イベント事業
事業内容	高野山内、特に壇上伽藍を含む西方エリアの文化資源の魅力を理解・体感できる交流イベント事業。 ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアタースペースを活用した交流イベントの実施 ・山内僧侶や高野山学園高野山大学講師と、国内外の観光客や子供との交流
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、学校法人高野山学園、南海電気鉄道株式会社、凸版印刷株式会社 等
実施時期	2022 年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	イベント開発・実施件数を、2023 年から毎年 5 件
必要資金 調達方法	20,000 千円 (内訳：7,471 千円(自己資金)、12,529 千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-2. 情報通信技術を活用した展示、外国語による情報の提供その他の国内外からの観光旅客が文化についての理解を深めることに資する措置に関する事業

(事業番号 2-①)

事業名	高野山文化観光ストーリーに基づくデジタルコンテンツ上演事業
事業内容	高野山の文化資源のストーリーを分かりやすく伝え、周遊の動機づけを行うため、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」に開設するシアターにて、VR等のデジタルコンテンツを上演する。事前知識なく観光するだけでは気が付きにくい文化資源の魅力や見どころを伝えていく。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2021 年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	オリジナルコンテンツを年 1 本開発
必要資金 調達方法	52,000 千円 (内訳：21,199 千円(自己資金)、30,801 千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号2-②)

事業名	ICT を活用した高野山内周遊促進事業
事業内容	<p>「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアターで紹介するコンテンツと鑑賞者のスマートフォンを結び付け、壇上伽藍を含む西方エリアを中心とした文化資源の周遊観光を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上演コンテンツとして紹介した各文化資源のポイントについて、鑑賞者のスマートフォンに Web 表示させる連動施策を実施。表示させるコンテンツは文化資源の詳細解説や現在地からの行き方などを記載し、周遊観光を促す。 ・周遊先の文化資源に案内板を設置し、詳細解説情報の提供を行う。スマートフォンで読み取るQRコード等で Web サイトへ誘導、視覚的にも分かりやすい解説を行う。
実施主体	高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2021 年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	周遊施策を年2本(事業番号1-①と連動)
必要資金 調達方法	<p>35,850 千円 (内訳: 14,006 千円(自己資金)、21,844 千円(文化観光推進事業補助金))</p> <p>国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

(事業番号2-③)

事業名	高野山の魅力を伝える多言語コンテンツ造成事業
事業内容	<p>高野山のストーリーを伝えるVR等のデジタルコンテンツの多言語によるサービス提供を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VR等デジタルコンテンツの多言語化においては、諸外国(特に欧米圏)からみた日本の特性など文化的差異を把握した質の高い翻訳を実施するため、観光庁作成「魅力的な多言語解説作成指針」に基づきながら、日本在住歴が長く日本文化に精通した高野山学園高野山大学の外国人講師や山内寺院の外国人僧侶、外国人の地域通訳案内士等を起用し、訪日外国人のVRコンテンツ鑑賞体験の質を向上させる。 ・VR上演用多言語対応システムを導入し、シアターでのガイド(ナビゲーター)上演を多言語(英語、フランス語、中国語)対応で実施する。
実施主体	高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社、学校法人高野山大学
実施時期	2022 年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	VR等のデジタルコンテンツの多言語での上演(英語、フランス語、中国語(繁体))の3つと、さらに中国語(簡体)、ドイツ語、スペイン語、イタリア語の中からインバウンド回復における発地国の状況を勘案し2つ)
必要資金 調達方法	<p>12,000 千円 (内訳: 4,483 千円(自己資金)、7,517 千円(文化観光推進事業補助金))</p> <p>国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。</p>

(事業番号 2-④)

事業名	高野山の魅力を伝える通訳ガイドツアーサービス事業
事業内容	高野山内、特に壇上伽藍を含む西方エリアの魅力を伝えるインバウンド向けガイドツアーを実施する。 県が推進する熊野・高野地域通訳案内士等を起用し、VRや映像等のデジタルコンテンツを活用し、聴覚だけでなく視覚による魅力伝達によるガイドツアーを実施。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2022 年度にテストツアー実施、2023 年度より本格運用を開始
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	2022 年は、パイロットツアープログラムを 1 本開発。パイロット版を効果検証し、より高度なツアープログラムを、2023 年に 1 本開発
必要資金 調達方法	10,000 千円 (内訳：4,138 千円 (自己資金)、5,862 千円 (文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号 2-⑤)

事業名	高野山の魅力を伝える通訳ガイド育成事業
事業内容	高野山内、特に壇上伽藍を含む西方エリアの魅力を伝えるため、通訳案内ガイドの育成を行う。 ・和歌山県が推進する「熊野・高野地域通訳案内士」等を対象に、外国人目線で仏教文化を理解するために高野山学園高野山大学の外国人講師や、山内寺院の外国人僧侶などを講師とした多言語ガイド育成の機会を設ける。 ・VRや映像等のデジタルコンテンツを活用し、聴覚だけでなく視覚による魅力伝達を通じた山内文化資源の案内を推進する。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社、学校法人高野山学園
実施時期	2022 年度より開始
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	通訳ガイド育成プログラムを、2022 年はパイロットで開発し、効果検証した上で 2023 年に高度版を開発。
必要資金 調達方法	6,000 千円 (内訳：2,483 千円 (自己資金)、3,517 千円 (文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号2-⑥)

事業名	上質なインバウンド観光サービス事業
事業内容	インバウンドの知識富裕層が満足する上質で特別な文化観光体験プログラムを開発する。VRコンテンツの貸切鑑賞や、通常はアクセスできない場所や人の訪問を提供する。富裕層旅行専門事業者と連携して、富裕層のニーズに合うように開発していく。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2022年度にテストツアーを実施、2023年度より本格運用を開始
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	富裕層向けツアープログラムを開発
必要資金 調達方法	10,000千円 (内訳：4,943千円(自己資金)、5,057千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-3. 国内外からの観光旅客の移動の利便の増進その他の文化資源保存活用施設の利用に係る文化観光に関する利便の増進に関する事業

(事業番号3-①)

事業名	案内看板設置による周遊促進事業
事業内容	高野山駅や高野山内駐車場から周遊拠点となる「高野山デジタルミュージアム(仮称)」までの、また「高野山デジタルミュージアム(仮称)」から各文化観光施設への周遊を促進させる案内看板を設置。
実施主体	高野町観光協会、株式会社DMC高野山、南海電気鉄道株式会社
実施時期	2022年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	客溜まり拠点(高野山駅、金剛峯寺前駐車場、中の橋駐車場等)における案内板を10か所設置
必要資金 調達方法	11,760千円 (内訳：5,813千円(自己資金)、5,947千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号3-②)

事業名	レンタサイクルや小型電気自動車等の利用活性化による周遊促進事業
事業内容	「高野山デジタルミュージアム(仮称)」から発信する情報と合わせた利用案内情報の発信、Web や看板による告知、クーポン等によるレンタサイクルや小型電気自動車等の利用活性を行う。
実施主体	高野町観光協会、株式会社DMC高野山
実施時期	2023 年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	レンタサイクルや小型電気自動車等の利用活性のための施策3つ
必要資金 調達方法	3,000 地円 (内訳: 1,000 千円(自己資金)、2,000 千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号3-③)

事業名	周遊チケットや共通チケットの拡充による周遊促進事業
事業内容	南海電鉄が販売する既存の周遊チケットに、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアター鑑賞割引券やカフェ利用券、現在組み込まれていない文化施設等の割引あるいは利用券を含めるなど、交通事業者との連携チケット並び連携パッケージ施策を検討実施する。また、周遊コース別(体験種類別)や料金プラン別に新たな周遊チケットを南海電鉄と共同構築するなど、周遊促進策を通して、高野山の魅力伝達と来場意向喚起に資するチケット施策などを検討実施する。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、株式会社DMC高野山、南海電気鉄道株式会社
実施時期	2022 年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	「高野山デジタルミュージアム(仮称)」のシアター鑑賞券や飲食サービスが含まれる周遊・共通チケットの数2つ
必要資金 調達方法	3,000 千円 (内訳: 1,483 千円(自己資金)、1,517 千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-4. 文化資源に関する工芸品、食品その他の物品の販売又は提供に関する事業

(事業番号4-①)

事業名	山内文化資源の魅力を活用したオリジナル商品の共同開発事業
事業内容	山内事業者と連携し、高野山ならではのオリジナル商品の共同開発を行い、開発商品を「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でも販売する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ショップでの販売商品はデジタルアーカイブデータやVR等のデジタルコンテンツ素材を有効活用し、ここでしか手に入らない(希少価値が高い)オリジナル商品を企画開発し販売。高野山文化体験の持ち帰りを実現する。 ・ カフェでは、高野山の地域産品を活用し高野山伝統の精進料理をテーマとした和モダンのオリジナル飲食メニューを開発する。 ・ 商品開発に当たっては、宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、地域商店などの周辺観光施設や事業者とワークショップを行うなどの連携を図る。文化財高品位複製品、著名文化財、精進料理等をモチーフにしたメニューや商品を開発する。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2021年度から商品開発し、2022年度より販売開始
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	ショップでのオリジナル商品、カフェでのオリジナル飲食メニューを、年1つずつ
必要資金 調達方法	4,950千円 (内訳：1,995千円(自己資金)、2,955千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号4-②)

事業名	「高野山デジタルミュージアム(仮称)」カフェ企画・開発事業
事業内容	高野山の1200年の営みに浸ることができる飲食体験を提供するために、世界観に浸り落ち着くことができる環境の定義や、定義された環境を空間に表現する空間演出の企画・ディレクションを行う。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2021年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	カフェの環境定義と空間演出ディレクション
必要資金 調達方法	3,990千円 (内訳：1,999千円(自己資金)、1,991千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号4-③)

事業名	「高野山デジタルミュージアム(仮称)」ショップ開発事業
事業内容	高野山の1200年の営みを記念として手に入れる体験を提供するために、世界観に浸り落ち着くことができる環境の定義や、定義された環境を空間演出の企画・ディレクション(高野霊木等を使用した商品棚で演出等)を行う。
実施主体	宗教法人金剛峯寺、高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2021年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	ショップの環境定義と空間演出ディレクション
必要資金 調達方法	3,990千円 (内訳:1,999千円(自己資金)、1,991千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-5. 国内外における文化資源保存活用施設の宣伝に関する事業

(事業番号5-①)

事業名	多言語に対応したWebサイト制作と国内外プロモーション事業
事業内容	・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」の公式Webサイトについて、同施設の企画・イベントやシアター上演情報、カフェやショップでの季節限定商品情報などを多言語で発信やコンテンツの増強を行い、魅力増進を図る。 ・JNTOとも連携してインバウンドプロモーションを推進する。
実施主体	高野町観光協会、株式会社DMC高野山、凸版印刷株式会社
実施時期	2023年度より実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	公式Webサイトの開設。多言語化されたWebサイトの開設。
必要資金 調達方法	15,000千円 (内訳:5,000千円(自己資金)、10,000千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号5-②)

事業名	交通動線と連携したマーケティングプロモーション事業
事業内容	南海電鉄の車両や関西空港駅やなんば駅といった交通拠点や、電車やバス等の交通動線上において、国内客、海外客両方の乗降客に対して高野山の魅力やストーリーを伝達し、来場意向を喚起させる為のビジュアルを露出する。その露出シーンやターゲットに合わせた形で映像や静止画ビジュアル素材等を制作し、高野山のブランド向上、興味関心を持つきっかけの提供を図る。
実施主体	南海電気鉄道株式会社、株式会社DMC高野山
実施時期	2021年度から実施
継続見込	事業収入等により継続
アウトプット 目標	南海電鉄の車両及びなんば駅等主要駅における「高野山文化観光ストーリー」に対応した映像・静止画のビジュアル制作及び露出
必要資金 調達方法	4,950千円 (内訳: 1,995千円(自己資金)、2,955千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-1-6. 7-1-1~7-1-5の事業に必要な施設又は設備の整備に関する事業

(事業番号6-①)

事業名	「高野山デジタルミュージアム(仮称)」シアター設備事業
事業内容	以下の事業に必要なリノベーション等施設整備、及び設備敷設を行う。 ・高野山文化観光ストーリーに基づくデジタルコンテンツ上演事業(事業番号2-①) ・高野山の魅力を伝える多言語コンテンツ造成事業(事業番号2-③)
実施主体	株式会社DMC高野山
実施時期	2021年10月に完成予定
継続見込	なし
アウトプット 目標	「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でのシアター開設
必要資金 調達方法	141,594千円 (内訳: 71,128千円(自己資金)、70,466千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号6-②)

事業名	「高野山デジタルミュージアム(仮称)」カフェ・ショップ設備事業
事業内容	以下の事業に必要なリノベーション等施設整備、及び設備敷設を行う。 ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」カフェ開発事業(事業番号4-②) ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」ショップ開発事業(事業番号4-③)
実施主体	株式会社DMC高野山
実施時期	2022年5月に完成予定
継続見込	なし
アウトプット 目標	・山内文化資源の魅力を活用したオリジナル商品開発 ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でのカフェ開設 ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でのショップ開設
必要資金 調達方法	65,558千円 (内訳:32,404千円(自己資金)、33,154千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

(事業番号6-③)

事業名	文化観光周遊拠点としての付帯サービス強化事業
事業内容	以下の事業に必要な施設設備、及び設備敷設を行う。 ・周遊観光に必要な基本設備として、「高野山デジタルミュージアム(仮称)」へのWi-Fi等の通信環境の整備、インバウンド向けの貸出用小型端末(スマートフォン等)の配備(事業番号2-②) ・国内外観光客に向けて多言語での情報発信を可能にするデジタルサイネージの設置(事業番号3-①)
実施主体	高野町観光協会、株式会社DMC高野山
実施時期	2021年度、2022年度に実施
継続見込	なし
アウトプット 目標	・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」へのWi-Fi環境構築(2021年度) ・多言語での情報発信を可能にするデジタルサイネージの設置(2021年度) ・「高野山デジタルミュージアム(仮称)」でのインバウンド向けの貸出用小型端末(スマートフォン等)の配備(2022年度)
必要資金 調達方法	4,456千円 (内訳:2,288千円(自己資金)、2,168千円(文化観光推進事業補助金)) 国の予算事業等について、記載のとおり調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

7-2. 特別の措置に関する事項

7-2-1. 必要とする特例措置の内容

事業番号・事業名	
必要とする特例の根拠	文化観光推進法第 条 (法の特例)
特例措置を受けようとする主体	
特例措置を受けようとする事業内容	
当該事業実施による文化観光推進に対する効果	

7-3. 必要な資金の額及び調達方法

	総事業費	事業番号	所要資金額	内訳
令和3年度	156,679千、円	事業番号1-①	5,000千円	2,607千円(自己資金) 2,393千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号1-②	3,080千円	1,606千円(自己資金) 1,474千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号1-③	1,104千円	576千円(自己資金) 528千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-①	12,000千円	6,256千円(自己資金) 5,744千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-②	4,970千円	2,591千円(自己資金) 2,379千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号4-①	990千円	516千円(自己資金) 474千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号4-②	990千円	516千円(自己資金) 474千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号4-③	990千円	516千円(自己資金) 474千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号5-②	990千円	516千円(自己資金) 474千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-①	123,409千円	59,074千円(自己資金) 64,335千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-③	3,156千円	1,645千円(自己資金) 1,511千円(文化観光推進事業補助金)
令和4年度	148,302千円	事業番号1-①	3,000千円	1,483千円(自己資金) 1,517千円(文化観光推進事業補助金)

	事業番号1-②	5,280千円	2,610千円(自己資金) 2,670千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号1-③	2,908千円	1,437千円(自己資金) 1,471千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号1-⑤	5,000千円	2,471千円(自己資金) 2,529千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号2-①	10,000千円	4,943千円(自己資金) 5,057千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号2-②	6,970千円	3,445千円(自己資金) 3,525千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号2-③	3,000千円	1,483千円(自己資金) 1,517千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号2-④	5,000千円	2,471千円(自己資金) 2,529千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号2-⑤	3,000千円	1,483千円(自己資金) 1,517千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号2-⑥	10,000千円	4,943千円(自己資金) 5,057千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号3-①	11,760千円	5,813千円(自己資金) 5,947千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号3-③	3,000千円	1,483千円(自己資金) 1,517千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号4-①	990千円	489千円(自己資金) 501千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号4-②	3,000千円	1,483千円(自己資金) 1,517千円(文化観光推進事業補助金)
	事業番号4-③	3,000千円	1,483千円(自己資金) 1,517千円(文化観光推進事業補助金)

		事業番号5-②	990千円	489千円 (自己資金) 501千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-①	4,546千円	2,247千円 (自己資金) 2,299千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-②	65,558千円	32,404千円 (自己資金) 33,154千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-③	1,300千円	643千円 (自己資金) 657千円 (文化観光推進事業補助金)
令和5年度	54,496千円	事業番号1-①	3,000千円	1,000千円 (自己資金) 2,000千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号1-④	3,000千円	1,000千円 (自己資金) 2,000千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号1-⑤	5,000千円	1,667千円 (自己資金) 3,333千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-①	10,000千円	3,333千円 (自己資金) 6,667千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-②	7,970千円	2,657千円 (自己資金) 5,313千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-③	3,000千円	1,000千円 (自己資金) 2,000千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-④	5,000千円	1,667千円 (自己資金) 3,333千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-⑤	3,000千円	1,000千円 (自己資金) 2,000千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号3-②	3,000千円	1,000千円 (自己資金) 2,000千円 (文化観光推進事業補助金)
		事業番号4-①	990千円	330千円 (自己資金) 660千円 (文化観光推進事業補助金)

		事業番号5-①	5,000千円	1,667千円(自己資金) 3,333千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号5-②	990千円	330千円(自己資金) 660千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-①	4,546千円	1,515千円(自己資金) 3,031千円(文化観光推進事業補助金)
令和6年度	45,496千円	事業番号1-①	3,000千円	1,000千円(自己資金) 2,000千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号1-④	5,000千円	1,667千円(自己資金) 3,333千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号1-⑤	5,000千円	1,667千円(自己資金) 3,333千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-①	10,000千円	3,333千円(自己資金) 6,667千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-②	7,970千円	2,657千円(自己資金) 5,313千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-③	3,000千円	1,000千円(自己資金) 2,000千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号4-①	990千円	330千円(自己資金) 660千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号5-①	5,000千円	1,667千円(自己資金) 3,333千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号5-②	990千円	330千円(自己資金) 660千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-①	4,546千円	1,515千円(自己資金) 3,031千円(文化観光推進事業補助金)
令和7年度	47,496千円	事業番号1-①	3,000千円	1,000千円(自己資金) 2,000千円(文化観光推進事業補助金)

		事業番号1-④	7,000千円	2,333千円(自己資金) 4,667千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号1-⑤	5,000千円	1,667千円(自己資金) 3,333千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-①	10,000千円	3,333千円(自己資金) 6,667千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-②	7,970千円	2,657千円(自己資金) 5,313千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号2-③	3,000千円	1,000千円(自己資金) 2,000千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号4-①	990千円	330千円(自己資金) 660千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号5-①	5,000千円	1,667千円(自己資金) 3,333千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号5-②	990千円	330千円(自己資金) 660千円(文化観光推進事業補助金)
		事業番号6-①	4,546千円	1,515千円(自己資金) 3,031千円(文化観光推進事業補助金)
合計	452,470千円			

※国の予算事業等について、記載の通り調達できない場合には、自己資金による対応等について検討する。

8. 計画期間

令和3年度～令和7年度（5年計画）